

## 12. 県中南部地域におけるリーキ12～3月出荷作型の播種適期

### [要約]

県中南部地域において、リーキの12月～3月出荷作型では、5月下旬～6月上旬に播種すると高温期の欠株が少なくなり、可販収量、秀品収量ともに多くなる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話086-955-0277

[分類] 情報

---

### [背景・ねらい]

近年、県中南部地域で冬春どりリーキの産地化が図られているが、高温期を中心に軟化腐敗株が多発し安定生産に至っていない。そこで、良品を安定生産できる播種時期を明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

1. 3月下旬～6月下旬播種では、播種時期が遅いほど高温期に軟化腐敗株の発生が少なく、5月下旬以降の播種では生存率が80～90%と高くなる（表1）。
2. 可販収量及び秀品収量は、5月下旬に播種した場合に優れる（表1）。3月下旬及び4月下旬に播種した場合、夏以降、枯死はしないものの徐々に衰弱していく株が多く見られ、その多くが規格外となる（表1）。
3. 播種日が遅いほど、止め土（最終土寄せ）時期である11月までの葉鞘長は短いが、6月上旬までの播種では、土寄せが可能な分岐部の高さが秀品基準である18cm以上になる（図1）。
4. 11月以降には分岐部高さの伸長は緩やかになり、6月下旬以降の播種では3月までに収穫できない（図1）。
5. 葉鞘径は播種時期に関わらず10月には概ね30mm程度となり（図2）、収穫期にはどの区も出荷に十分な太さに達する（データ略）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 生育は気象や圃場条件等の影響を受けるため、一定ではない。
2. 土寄せを分岐部の上まで行うと軟化腐敗株が増加するため、分岐部以上の土寄せをしない。

[具体的データ]

表1 播種時期が生存率及び収量<sup>2</sup>に及ぼす影響

処理区	生存率 (%)	可販率 (%)	可販収量 (kg/a)	秀品率 (%)	秀品収量 (kg/a)
3月下旬播種区	53	20	31	13	23
4月下旬播種区	75	45	65	28	45
5月下旬播種区	80	78	132	60	111
6月下旬播種区	90	0	0	0	0

<sup>2</sup> 岡山県出荷基準に従って集計した(収穫時期は12月中旬)

注)「LONGTON」を供試した

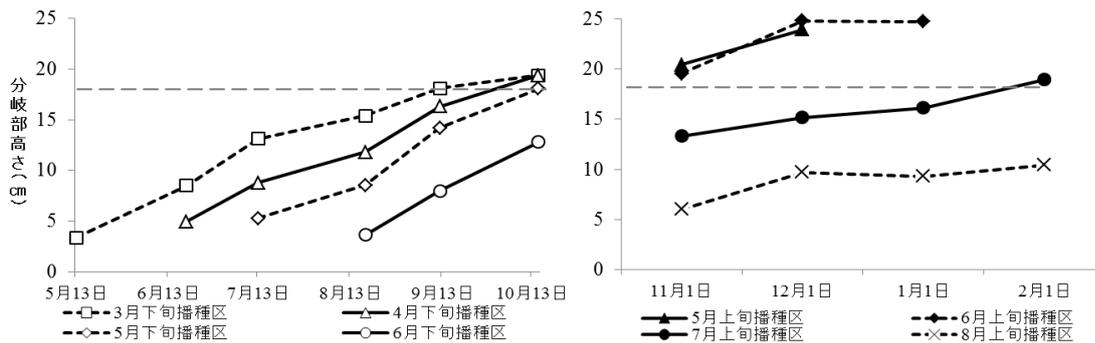


図1 分岐部高さ<sup>2</sup>の推移

<sup>2</sup> 分岐部高さは土寄せを行うことのできる高さと同義であり、止め土時期である10～11月に秀品基準である18cm以上であることが望ましい

注) 兩年共に「LONGTON」を200穴セルトレイに播種し、約50日後に条間1.4m、株間15cmで定植した  
左は2015年度、右は2014年度

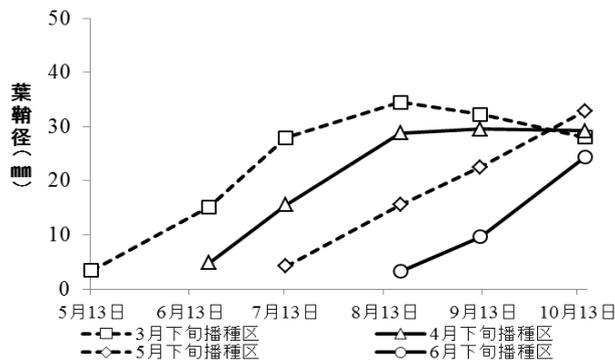


図2 葉鞘径の推移

注) 「LONGTON」を200穴セルトレイに播種し、約50日後に条間1.4m、株間15cmで定植した

[その他]

研究課題名：県南部におけるリーキの安定栽培技術の確立

予算区分：県単（現地緊急）

研究期間：2014～2016年度

研究担当者：信岡佑太

関連情報等：信岡佑太(2015)園学研、14（別2）:197